第１回　機器･配管系検討会　議事録

１．開催日時：平成１５年 6月１０日（火）１０：００～１１：３０

２．開催場所：航空会館　７０１会議室

３．出席者：（順不同，敬称略）

- □　委　員：原主査（東京理科大学），藤田副主査（東京電機大学），遠藤幹事（日本原子力発電），白井副幹事（関西電力），河本（北海道電力），堤（中部電力），梅本（四国電力），藤田（九州電力），鞍本（電源開発），中島（東芝），福西（三菱），尾崎（富士電機），鈴木（日立）　（計１３名）
- □　代理出席：井上（中国電力・富田代理），堀内（原子燃料・板垣代理）　（計２名）
- □　欠席委員：大泉（東北電力），設楽（東京電力），米田（北陸電力）　（計３名）
- □　事務局：肥後（日本電気協会）　（計１名）

４．配布資料

資料 No.1-1　日本電気協会 原子力規格委員会 規約(平成 12 年 11 月 16 日制定)
資料 No.1-2　規格策定基本方針
資料 No.1-3　耐震設計分科会・検討会の公開について
資料 No.1-4　原子力規格委員会 耐震設計分科会 機器・配管系検討会委員名簿
資料 No.1-5　耐震設計分科会 規格改廃要否、平成 14 年度活動実績及び平成 15 年度活動計画（案）
資料 No.1-6　第１回総括検討会　議事録(案)
資料 No.1-7　原子力発電所耐震設計技術指針(JEAG4601)　目次案
資料 No.1-8　執筆要領
資料 No.1-9　耐震設計分科会及び各検討会の役割及び運営について（案）
参考資料 1　第 10 回　原子力規格委員会　議事録(案)
参考資料 2　表彰規約について(案)
参考資料 3　規格作成手引きに則って作成された規格の例示について
参考資料 4　原子力規格委員会の審議のあり方について（案）

５．議事

（１）主査の選出及び副主査、幹事、副幹事の指名について

ａ．資料 No.1-1 に基づき、事務局より検討会に関する規約の概要について説明が行われた。主な内容は以下のとおり。

・初回の検討会において主査１名を互選により選出する。検討会には副主査を置くことができ、主査が副主査を指名する。
・決議に際しては委員総数の２／３以上の出席及び出席者の４／５以上の賛成が必要となる。
・公開とは、開催案内をホームページ及び電気新聞で公知し、傍聴者の出席及び資料開示請求へ

の対応など、分科会と同様の扱いとなる。

b．規約に基づき主査選出手続きを行った結果、主査候補として原委員が推薦され、その他候補者の推薦がないことを確認した後、挙手による決議を行った結果、委員総数１８名，出席委員１５名のうち候補者本人を除く全員の賛成で、原委員が主査に選出された。原主査より、副主査として藤田委員が、幹事として遠藤委員が、また副幹事として白井委員が指名された。

（２） 検討会の公開と耐震関係 JEAG の現状他について

資料 No.1-3、1-4、1-5 に基づき、遠藤幹事より耐震設計分科会と各検討会の構成、委員名簿及び耐震関係 JEAG の現状と今年度の活動計画について説明がなされた。主な内容は以下のとおり。

・検討会が今年度から公開となることに伴い五つの検討会とし、非公開の幹事会を設ける。

・JEAG4601 の 84･87･91 年版の３分冊を原子力安全委員会の耐震設計審査指針の検討をもとに改訂するため、今年度も引き続き作業を行う。JEAG4616「乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針」は、出版手続き中。「鋼板コンクリート構造に関する技術指針」は、建物･構築物検討会で審議中。

（３） 耐震設計分科会及び各検討会の役割及び運営について

資料 No.1-9 に基づき、遠藤幹事より耐震設計分科会及び各検討会の役割及び運営について説明がなされた。主な内容は以下のとおり。

・各検討会は、原則として検討会原案の逐条審議を行う。

・作業会設置の件については総括検討会にて検討を依頼することとした。

・また作業会において委員でない人が原案の執筆に携わる場合、その人は常時参加者として検討会のディスカッションに参加してもらうのがよいのではないかとの意見があり、原主査から「この件は総括検討会で方針を決定してもらい、各検討会はそれに従うことにしたい。」との見解が示され、総括検討会に検討を依頼することとした。

（４） 総括検討会の状況報告について

資料 No.1-6 に基づき、遠藤幹事より 4 月 25 日の第１回総括検討会の議事内容が紹介された。

（５） JEAG 本文の記載方法について

資料 No.1-2 の「付則－3　規格作成手引き」に基づき、遠藤幹事より JEAG 本文の書き方が、原子力規格委員会において「規格本文中の要求事項は参考や解説がなくても理解、履行できるような記載とすること。」と方針決定されたため、現在のようなテキスト的な記載を変更しなければならないことについて説明がなされた。また、遠藤幹事より執筆者のために「付則－3　規格作成手引き」の主要部分をまとめた執筆要領(資料 No.1-8)を作成中であり、出来しだい各検討会の幹事を通じて委員に周知する旨の紹介がなされた。

(6) JEAG4601改定目次案について

資料No.1-7に基づき、遠藤幹事よりJEAG4601改定目次案について説明がなされた。

○ 84･87･91年版の３分冊を１冊にするのか。

→ 基本的には１冊にすることを考えている。電気協会にはバインダー方式を要望している。

○ 「5.6耐震設計の事例」とあるが、本文に設計事例を記載するのか。

→ 本文・解説・参考資料に分類されるため、設計事例は参考資料に位置付けられると思う。
本目次案は、たたき台である。

(7) 原子力規格委員会の状況紹介について

参考資料１,２,３,４に基づき、事務局より5月23日の第10回原子力規格委員会のうち検討会に関連する議事内容が紹介された。

(8) その他

次回の開催は、原子力安全委員会の耐震指針検討分科会の進捗状況を見ながら決めたいので、原主査と遠藤幹事が相談のうえ、後日連絡する。

以　上